

【瀬谷区】令和 6 年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 6 年 9 月 6 日（金） 13 時 50 分 ～ 16 時 5 分
場 所	瀬谷区役所 5 階 大会議室
出席者	<p>【座 長】久保和弘議員</p> <p>【議 員： 2 名】川口広議員、花上喜代志議員</p> <p>【瀬谷区： 3 5 名】植木八千代区長、池上武史副区長、 木村洋福祉保健センター長、 長井真福祉保健センター担当部長、 富永裕之土木事務所長、 細川直樹災害対策担当部長（瀬谷消防署長） ほか関係職員</p>
議 題	<p>(1) 令和 5 年度 個性ある区づくり推進費 決算状況</p> <p>(2) 令和 5 年度 個性ある区づくり推進費 自主企画事業の決算</p> <p>(3) 令和 6 年度 個性ある区づくり推進費 自主企画事業の執行状況</p> <p>(4) 令和 7 年度 個性ある区づくり推進費 予算編成にあたって</p>
発言の 要 旨	<p>○議題（1）～（4）</p> <p>【花上議員】今説明いただいた事業は、いずれも瀬谷区にとっては大変重要な事業であると受けとめている。今日お集まりの幹部の皆さん方が、それぞれの部署で仕事を一生懸命していただき、区民のための行政を進めていただいていることにまず感謝を申し上げたい。こうしたきめ細かな行政を推進していただいている訳であるが、市議員になってからずっと瀬谷区のまちづくりに関わってきて、今本当に重大な転換期に差し掛かったのではないかと思っている。先日所属する常任委員会で上瀬谷のまちづくりが行われている現地を視察してきた。東京ドーム 52 個分という大変広大な面積が米軍に接收されて、全く手つかずだったこともあり、瀬谷区全体では活気のあるまちづくりが全体的に行われなかったという歴史を見てきたので、上瀬谷の視察をして、もうすでに造成工事が始まったという現場を見て、これからは瀬谷区が本当に劇的に変わってくるな、という印象を受けた。これからは横浜 18 区の中でも瀬谷区</p>

役所が大変注目を集める重要な区役所になってくると思う。今こういう変化が瀬谷区に起きている訳だが、そのことをどのような気持ちで見ているか、区長の考えを聞かせてもらいたい。

【植木区長】着任をして今年で丸4年になりますが、着任した時はコロナの関係でいろいろなことが進められなかった、そういった時期でした。その間もいろいろ上瀬谷のまちづくりをどうしていくのか、ずっと検討を続けさせていただいて、実際に園芸博覧会、GREEN×EXPO 2027 が来ることになり、そしてそれに向けていろいろな形でのまちづくりが進んでいるということで、変化を実感しています。また、相鉄線の都心直通で便利になったということで、以前にもお話をさせていただきましたが、全体的な人口が減ってはいますが、転入をされてくる方が増えている、社会増加の状況にあることもあって、私どもだけが考えているのではなく、いろいろな方が瀬谷に興味を持ってお越しただけの、そういった大変よい機会になってきていると認識しております。

【花上議員】今おっしゃったように、相鉄線の都心直通をはじめ、瀬谷区がいろいろな意味で大きく変貌を遂げてきている。今まで瀬谷区は横浜の西の玄関口と言ってきたが、この間上瀬谷のまちづくりを見て、横浜の西部地域の拠点都市になっていくと思っている。正に瀬谷の時代の到来を目の当たりにしてきたと感じている。今は造成工事だけなので、まちづくりの具体的な姿はまだ見えてきていないが、はっきりしてきたのは、上瀬谷には物流センターができる、農業振興地域が具体的に進んでいく、あるいは横浜市内最大級の公園も整備され、その中には防災の基幹施設が作られるといったことをはじめ、上瀬谷では、横浜の中で目を見張るような、そうしたまちづくりが進んでいくということである。それに併せて、上瀬谷に東名高速道路の新しいインターチェンジができ、瀬谷駅から海軍道路に新たなバス専用レーンができるとか、瀬谷中学校の移転、そしてその跡地に公共的な施設作りなども今後は計画されていったりするであろうことを、将来的な展望も含めて考えると、瀬谷区役所で働く幹部の皆さん方は、そうした変化を目の当たりにしていくということになる。それらに対応する取組がこれからは具体的に出てくる、それぞれの部署でそれぞれの取組が行われてくると思うが、こうした上瀬谷のまちづくり、それから国際園芸博覧会、こういったものの計画が具体的に進んでいく、そうした取組に対して瀬谷区役所はどのよう

に対応していくのか、区役所としての考え方を伺いたい。特に上瀬谷については、先日8月19日に上瀬谷の県営細谷戸ハイツの一角に拠点事務所ができて、横浜市の職員約100名がその事務所で仕事をしている。そればかりではなくて、二ツ橋北部には土地区画整理事業の事務所があり、横浜市役所の出先の事務所が二つもあるという、横浜18区の中でも特別な区なのではないかと思う。今、申し上げたような、こうしたまちづくり、あるいは国際園芸博覧会に対応して、瀬谷区役所としてはどこの部署が全体的な取りまとめの窓口として活動していくのか伺いたい。

【植木区長】国際園芸博覧会にしても上瀬谷のまちづくりにしても、瀬谷区内での事業です。そういった横浜市全体の事業の中で区として何をやっていくべきなのか、ということのご質問であると思います。区としては、まず、区民の皆様がどういった形で考えていらっしゃるのか、何をまちづくりの中で求めているのか、そういったことをしっかりと私どもでお聞きをするのが、第一の仕事であると思っています。そして区民の皆様のご意見を聞きながら、どうやったら区民の皆様がまちづくり等を通して幸せを実感できるのか、そういったことを局の事業にどのように組み込むのか、そういった調整役を果たしていくことが、その次の区としての役割になろうかと思っています。そうしたことを考えますと、区民の方からはまちづくりであったり、それに伴っての福祉の関係であったりと、いろいろな視点でのご意見が出てくると思いますので、最終的には区政推進課で取りまとめをさせていただきますが、どこの部署が中心というよりも、区役所全体でしっかりと区民の皆様のご意見を受けとめていきたいと思っています。

【花上議員】今、区長がおっしゃったことは非常に大事なことだと思う。区政を進めていく上で大事なものは、区民の声をどのように聞いてその意見を区政に生かしていくかという、そうした住民本位の基本的な考え方が大変重要である。山中市長も常に市民のための市民の市政と言っているが、まず市民にしっかりと目を向けて意見を聞いて、その意見を最大限取り入れていくという民主主義の基本が大変大切であると思う。数多くの課題があるものについて、それぞれの部署において区民の声をしっかりと聞いていくということが大事である。日々業務に当たっているここにいる方々は、部下の方々も含めて区民と直接接していると思うので、いろいろな意見を踏まえて、それを行政に生かして市民の皆さんの

満足度を上げていくことが大事。その市民の声を生かす、満足度を上げていくことについての基本的な考え方を伺いたい。

【植木区長】いろいろなことで悩みを抱えている方も多くいらっしゃいます。まずお話をしっかり聞いた上で、何をどこまでやるのかということを考えさせていただくことで、区民の満足度を上げていく必要があるのではないかと考えています。

【花上議員】次に少し具体的なことを聞きたいと思うが、防災対策について市民の関心が非常に高まっている。いろいろな方から「巨大地震が発生したときの備えは横浜市ではどうしているんですか」というような質問が、最近しばしば聞かれている。この防災対策に対する備えをちゃんとしていかなければならないと思う。そういう意味では、横浜市の消防局、消防団、それから防災関係各機関・組織の方々の協力で、市民の不安を取り除き、災害に強いまちづくりを進めていくことが基本的な取組であろうかと思う。冒頭話したように、特に上瀬谷には防災の基幹施設ができる、首都直下型地震に対応する大きな防災基地ができるということで、それがどのような施設になっているのか、市民の皆さんもこのことについては結構分かっていて、その防災基地の中にはヘリポートや防災備蓄施設といったようなものができるのか、というような具体的な話が出てきている。こういった点について、今の時点で何か情報は入っているのか。

【植木区長】まず、上瀬谷については、広報よこはまの4月号で上瀬谷にこうしたものができますということについて簡単な文言で出させていたただいて、それを区では承知しているという状況です。実際にどこの場所にどういったものができるのかといったような詳しい点については、今、総務局や脱炭素・GREEN×EXPO推進局においていろいろと検討をしていると伺っています。局に対しては、区民の方の近くにできるものになるので、しっかりとどういったものを、どういう時に、どういったことで使うのかということを事前に説明して欲しいと要望を出しているところです。もし消防局の方で付け加えることがあれば、お答えさせていただきたいと思います。

【細川瀬谷消防署長】検討もまだまだこれから進めるところですが、能登地震のことを踏まえるとやはり大きな拠点はどうしても必要となります。例えば、いろいろな緊急消防隊が集まって、そこから各地域に災害

対応に行くという拠点の考え方も必要ですし、もちろんヘリポートのことも考えていかなければいけないと思います。一つの可能性として、そういうことも考えていかなければいけないということは十分に踏まえて検討していますので、それはまたしかる後に、総務局もしくは消防局の方から区民に向けての説明があると聞いております。

【花上議員】今後かなり具体的な構想が出てくると思うが、能登半島地震の発生以来、水の問題など切実な話が出てきているので、市民の皆様からは、首都直下型地震が想定されている中で水の心配はないのか、食料はどうなのか、インフラの整備についてはどうなっているんだとか、いろいろな具体的な話が我々に寄せられるようになってきている。関心が高まっている防災問題については、万が一、大きな災害が起きた時には、そうした市民の皆さんの不安に応えることができる備えを行政においてもしっかりと整えていくということが必要であると思う。上瀬谷の防災機関施設の中には、当初、水や食料の備蓄については具体的な検討が行われてないということを知って驚いたが、その後しっかりと備蓄については取り入れるように頑張ります、と言っていたので大丈夫だろうなど思っている。そこで、これから秋になると集中豪雨などが想定されてくるので、集中豪雨が起きた時に河川の氾濫など、水に関わる被害などが発生する心配もない訳ではないので、それに対する備えをしていかなければならない。今瀬谷区内に消防団は確か4分団あって、班は14あると思うが、数を教えてもらいたい。

【相馬瀬谷消防署副署長】消防団につきましては、今、お話がありましたように4分団あり、団の本部もあります。器具置き場等は16、積載車は14台、可搬式ポンプは19基あります。

【花上議員】器具置き場が16あるとのことだが、16班あるということか。

【相馬瀬谷消防署副署長】1、2分団が各4班、3、4分団が各3班で合計14班あります。

【花上議員】いざ災害が起きた時には、消防団の皆さんの活躍というのは、消防署の職員の皆さんとともに期待されているが、大阪の例を挙げると、大阪市は消防団がないという話を聞いたが、それは事実か。

【細川瀬谷消防署長】そのように聞いております。その代わり職員数に影響されてきまして、消防職員の数は大阪の方が多くなっており、消防

団の数が影響しているものと考えます。

【花上議員】今の話は大変大事な話だと思うので、今後、研究していこうと思っているが、瀬谷区内にある14班の消防団員がいざ火事があったとか、あるいは河川が氾濫したとか、そうした災害に際しては出動してもらうということだが、区内の消防団が配置されている実態を見ると瀬谷区内全域を網羅しているとは言えないような状況ではないかと思う。もちろん器具置き場がある地域の消防団の方は活動をしているが、消防団のない地域に対するカバーという点について考えを伺いたい。

【相馬瀬谷消防署副署長】瀬谷消防団におきましては、瀬谷区内全域をカバーしています。瀬谷区は縦に長い形状をしています。南側の1分団から北側の4分団までそれぞれ受け持ちがあり、各エリアをカバーして対応しています。消防団だけに限らず、私たち公設消防も連携して対応しています。

【花上議員】全域で対応しているということだが、実際の火災が起きた時に現場に駆け付けると、消防署員が一番先に来て消火活動を行い、その後遅れて消防団員の方が来ている。遅れた理由を本人に聞くと、勤めに出ているので現場に駆けつけてくるのがこの時間になったというようなことであった。それは当然のことだろうと思う。だいぶ昔の話になるが、消防団は農家の方、地元の方々がほとんどであった。今はお勤めに行っている方や最近では女性の方が増えてきたので昔の消防団とちょっと色合いが変わってきていると思う。そのため、いざ災害が起きた時に消防団に大きな期待を寄せて現場に駆けつけて消火活動をやっていただくというようなことについて、最近はかなり困難な状況が生まれていると思うが、こうした実態についてはどう考えるか。

【細川瀬谷消防署長】おっしゃるとおり、消防団員を構成する年齢層や職業は非常に変わってきているところです。瀬谷区には大学がありませんが、他の区においては大学生の団員がいることもあれば、本当に昼間しかいないところもあります。もちろん公設消防と消防団中心に災害対応していきますが、やはり地域の防災も非常に大切で、各自治会の皆様に消防署の予防係の防災指導などを受けていただいて、スタンドパイプ等でまずは初期消火をやっていただいて、初期消火が成功すれば被害の拡大をだいぶ防ぐことができますので、その間に消防もしくは消防団がやってきてそこで防御するという形が今は一番良いのではないかと考え

ています。そのために各地域の自治会の方もしくは連合の方に消火のやり方を学んでいただくようお願いしています。

【花上議員】そうした対応をしていくことが大変大事であろうと思う。瀬谷区内に地域防災拠点はいくつあるか。

【松田総務課長】15 拠点あります。

【花上議員】我々議員はいつもお招きいただいて、地域防災拠点の訓練に参加しているが、自治会町内会の皆さんはじめ、PTAの関係の皆さんなど様々な方々が熱心に防災訓練に参加していただいている。横浜市ではこの地域防災拠点を作って、そうした災害に対する備えを整えているというのは住民の皆さんにとっては大変心強い、そうした組織であると思う。そうすると、消防団の皆さん方と地域の方々、地域防災拠点などで活動していただいている方々との連携は緊密にしていかなければならないと思うが、その点について何か工夫はしていることはあるか。

【細川消防署長】ご質問いただいたとおり、消防と地域防災拠点の連携は必要であると考えています。訓練には消防団の方も参加されているほか、全ての訓練はなかなか難しいのですが、それぞれを管轄している消防出張所長がアドバイザーとして参加させていただいています。

【松田総務課長】地域防災拠点は運営委員会が組織されておりまして、消防団の方にも運営に関わっていただいています。

【花上議員】連携して防災に取り組んでいるということが大変大事で、消防団という消防法に基づいた組織と地域防災拠点の方々との連携というのは法的にどうなのか見ていくと、そうした連携についての法律上の規定はないと思うが、いざ災害が起きた時には当然のことながら連携して、災害に対処することが必要である。意外にこのことは語られてないので、確か地域防災拠点の訓練に行くと、消防団の方が参加していることもない訳ではないが、そのあたりの連携というのがどうなっているのか、いつも感じる。その点について、今後どのように考えて取り組んでいこうとしているのか伺いたい。

【松田総務課長】地域防災拠点の運営委員の皆様には、定期的に区役所にもお集まりをいただきまして、情報共有する場を設けています。そうした場でも、連携についての確認や啓発に努めていきたいと思えます。

【花上議員】今こうした世の中で、生活に非常に困窮している方々が多く見受けられるが、子ども食堂等をはじめとして、生活弱者、社会的な

弱者の方々に対する対応というのがすごく必要な時代になってきていると思う。そこで生活保護について増えているのか、あるいは横ばいなのか、実態を伺いたい。

【越川生活支援課長】 コロナの影響を受けて、その頃から横浜市あるいは瀬谷区でも生活保護を受けている方は少しずつ増えている状況です。

【花上議員】 生活保護を受けている方は、月にいくらぐらい支給されているのか。

【越川生活支援課長】 世帯の状況によって若干異なりますが、例えば、70歳ぐらいの単身の高齢者ですと、生活費としては6、7万円、それから住宅のいわゆる家賃相当分については5万2千円が上限となっていますので、全額支給されると12から13万円というのが1ヶ月の保護費になろうかと思えます。

【花上議員】 最近では高齢者、1人暮らしの高齢者の方が年々増えているような話が聞かれるが、瀬谷区の1人暮らしのお年寄りの実態について伺いたい。

【瀬戸福祉保健課長】 現在、1人暮らし高齢者の方につきましては、民生委員の方に見守り事業として協力をしていただいています。こちらにつきましては、75歳以上を対象とした1人暮らし高齢者名簿を元にしていただいています。その名簿の登載数は令和5年度で6,142名となっています。また、65歳以上の独居世帯につきましては、令和5年9月時点で10,650世帯となっています。

【花上議員】 区では名簿上6,142名把握しているということだが、そういった方々を見守る体制は今どういう状況になっているのか。自治会町内会や社会福祉協議会が何らかの関わりを持っているのか、そういった点について聞かせてもらいたい。

【瀬戸福祉保健課長】 まず1人暮らし高齢者の方々につきましては、今お伝えしました民生委員の方の見守りがあります。その他にも、地域独自にいろいろなイベントや関わりの中で、身近なところで地域の中での見守り合いが行われています。その中で何か気になるご高齢の方がいらっしゃった場合につきましては、地域ケアプラザやいろいろな介護サービスの窓口等に繋いでいただいて、そうした機関と一緒に見守りを行っています。

【田嶋資源化推進担当課長】 見守りという点で、資源循環局ではふれあ

い収集を行っています。ふれあい収集につきましては、先月現在で 511 の方の支援を行っております。

【花上議員】件数は増加している傾向か。

【田嶋資源循環局】昨年度 3 月末現在 499 で、現在 511 でするので、増加傾向にあります。

【花上議員】傾向としてはそうであろうなと思う。年々、高齢者の方々が増えてくる中で、それに対するふれあい収集の取組というのは社会的に大変大事な仕事を、横浜市は制度化して取り組んでいると思う。今後益々ふれあい収集が必要な独居老人が増えてくる中で、体制づくりというのはしっかり対応していくことができるのか。現状を踏まえて、見通しを伺いたい。

【田嶋資源化推進担当課長】現状として、職員の数が増える傾向にはありませんので、今後の増加の割合にもよりますが、かなり厳しい状況であるのは間違いありません。その中でも、市民の方からの要請がありましたら、極力お受けさせていただいている状況です。

【花上議員】今のお話のように資源循環局瀬谷事務所の皆さんがふれあい収集を頑張らせていただいていることは、地域の方からも聞いている。年々増える傾向にある中で、職員や機材を整えていくことができるかどうか、今後非常に心配になって伺ったのだが、これは局全体、市政全体で考えなければいけないことであり、今話を聞いて議会としてもそのことは発言をしていきたいと思う。

それから健康について伺いたい。やはり市民の一番の心配事は健康に対する不安である。地域でいろいろ住民の皆さんとお話をしていると健康についての心配事、病気のことが多い。いろいろな集まりをやっているが、一番お話が出るのは病気の話である。瀬谷区内でクリニックや病院といった施設が今どうなっているのか、病院が増えて対応が十分できるような状態になっているのか、あるいは不足しているのか。以前は小児科や産婦人科が足りないと聞いたが、医療体制が十分に今機能しているのか伺いたい。

【木村福祉保健センター長】具体的な数字は持ち合わせてはいませんが、横浜市では市内を 7 方面ごとに分けて、市立病院や横浜市が誘致した地域中核病院といった病院が緊急医療や高度医療を担っています。瀬谷区は市の西部方面に位置しておりますので、そういった中核的な役割

を担うのが横浜市西部病院となりますが、区内には5つの病院があり、出産から終末期まで幅広くそれぞれの機能や特徴に応じた形で医療を提供していただいています。ただ、病床数という点では、神奈川県保健医療計画では、横浜市を1つの医療圏としていますので、今後その中で急性期病床については充足されているであろうということですが、回復期や慢性期の病院はまだ少し不足しているという状況です。市において病床数は制限といいますか、定数、基準数がありますので、今後既存の病床のさらなる有効活用や連携についての検討が市域全体で必要ではないかと考えています。

【花上議員】医療圏を神奈川県が決めているということだが、政令指定都市である横浜市に、医療法に基づく医療計画を策定する権限がないということは極めて不合理な話である。そうした権限も横浜市に委譲するのが当たり前で、377万人という静岡県よりも多い横浜市の人口を考えれば、県内では川崎市も一緒に取り組んでいるが、政令指定都市が特別市を目指すことは時代の流れとして当然のことだと思う。医療圏の点については、特別市ができる、できないは別として、権限を横浜市に委譲することは当然であって、当時の林市長も医療計画の業務については県から移譲を受ければ県を通さなくてもできると、はっきり言っていた。これは医療の問題だけではなくて、政令指定都市である横浜市が今後県から権限を移譲してもらいたい取組は他にもあるのではないかと思う。

教育委員会が今東西南北4つの拠点事務所を作っていることについても、中田市長の時に議会でも言ったが、横浜市には関内にしか教育委員会がないというこんな不合理なことない。同じ人口の四国4県で調べたら、96も教育委員会があった。きめ細かな行政が教育についてはできていない。これは方面別につくるべきだと言ってきたが、やはり教育をきめ細かく行っていくためには、4つの方面別の事務所でも足りないのではないかと思うくらいの状況である。これは時代に合わせて教育委員会改革も進めていかなければいけない。いじめの問題への対応の仕方も見ていると、決して今の教育委員会の体制で十分とは思えない。政令指定都市という制度の中でできることをやっていく、その知恵が4つの方面別の教育委員会であった。これからも法律を変えなくてもできる制度改革についてはいろいろやってもらいたいと思っている。今日ここにいる幹部の皆さん方は、それぞれの部署で不合理と思われるようなものがあ

れば声を上げてもらいたい。

【川口議員】まず全体的なところからお尋ねしたい。GREEN×EXPOについて、皆さんの肌感覚で、機運醸成について日を追うごとに熱くなってきているのか、機運醸成の雰囲気は前回と比べていかがか伺いたい。

【植木区長】機運醸成に関しましては、瀬谷区の中ではかなりの認知度になっています。その次に求められてくるのは、実際にどういったGREEN×EXPOになるのかという具体策が見えてきた時に、次はあることを知っているではなくて、行ってみたいと思ってもらう、そういった機運醸成が必要になってくると思っています。合わせて、地元区だけでなく横浜市で行うものでありますので、市域全体で機運醸成を図っていくためにどう取り組んでいくのかということについては、18区の区長でも話題になって進めているところです。

【川口議員】おっしゃるとおり、区民の皆様が行ってみたいと思える、そういう段階まで更に推し進めることができたらいいなということと、区民の皆様が行ってみたいと思うだけではなくて、一緒に行こうよと、そう発信してくれるような、そこまで落とし込むことができる素晴らしいと思っています。会議資料の21ページにあるGREEN×EXPOについては、後ほどまた改めて質問させていただきたいと思う。

昨年も申し上げたが、今年の夏もまた昨年と比べて非常に暑くて、それで夏祭りは当然地域の中で失ってはいけないものであると分かりつつも、地域の皆様から夏祭りの時期をずらせられないのか、という声が聞こえてきている。もしかしたら横浜市としては市民局が舵を取る、旗を振っていくような話になるのかもしれないが、皆さんの中で夏祭りの扱いに関して何か意見は出ているのか伺いたい。

【植木区長】昨年もご心配をいただいておりますが、今年はやはりかなり暑いということで、地域の方でも開催はやはり夏休みにしないとお子さんたちが楽しめないということで、夏休みに行いながら開始時間をかなり遅くに始められる、夕方からの開催に変更されているところも多くなってきていると実感しています。また区役所で防災のため購入させていただいたミストファンを地域でご活用いただいで、なるべく熱中症にならないように対応を取らせていただいでいます。また、炎天下の屋外で夏祭りをやるのではなくて、体育館などを活用したり、また、お祭りだけでなく防災訓練も以前は9月頭に一斉に行っていたものが、11月

ぐらいまでに時期が広がっていたりと、様々な暑さ対策をされていると認識しています。以前は防災訓練の際には防災服を着用していましたが、時期にこだわらず、無理がないように、熱中症にならないことを第一に訓練を進めていただきたいとお話させていただいているというのが最近の対応となっていると思っています。

【川口議員】参加者のことを考えて、夕方からの開催が多くなってきていることは肌感覚で分かっているが、やはりその準備をされる方のことを考えるとどうしても一番暑い時間帯から準備をされるということになってしまう。正直相談を受けて悩ましいところではあるが、誰が言い出すのかが非常に難しいと地域の方もおっしゃっている。地域の方も当然夏祭りを廃止したいと思っはいるが、時代にあったやり方が必要になってきていると言っている。ただ、防災訓練や秋祭り等もあつたり、また場所の問題もあつたりで、皆さんが板挟みになってしまっていると感じている。今日ここで何か具体的な策を出してもらいたいという訳ではないが、改めて地域から夏祭りの開催方法のリニューアルのアイデアが求められているということをご共有させてもらいたいと思う。皆さんも少しずつ頭の中でそういうことも考えながら、地域の皆様と向き合っいただくような時代になっていると思うのでよろしくお願ひしたい。

先ほどプラスチックの分別に関して、地域の中で説明会が行われているという話を伺ったが、先日第3回定例会の常任委員会の説明の中で公園の禁煙化の話をお聞ひしている。ほぼ固まってきているのではないかとお思っているが、これから瀬谷区の公園を禁煙化して行く中で、区民の皆様はプラスチックの分別と同じようなこととは言わないまでも、何か周知して行く意向はあるのか。それとも局がやって行くのか。

【富永土木事務所長】市内に2,700以上ある公園の中で最も数が多い身近な公園の管理者は土木事務所ですので、土木事務所としても重大な関心事です。まずは周知をしていくことが大事であるとお考えています。公園の禁煙化は、公園条例の中にある禁止行為に新たに禁煙を付け加えることとなりますが、現在でも、公園条例に違反すれば過料を取れることになっています。これまで、公園条例違反で過料をとったことは無く、禁煙を加えたときに条例の運用をどうして行くのかという頭の体操が必要です。局も土木事務所も一緒になってこれからのやり方や進め方について一生懸命検討しているところですが、来年からのスタートにあつ

では広報を手厚くやっという方向性と聞いています。広報を具体的にいつどのように始めるのかといったことは、今後、局から市会等で説明があるものと思っています。引き続きご指導いただければと思います。

【川口議員】 確か記憶では過料が5万円以下で結構な額の過料になっているので、知らなくて吸ってしまって、過料を払うという話になって喧嘩の種になってしまうことが簡単に想像がつくということと、あとは外国人の皆様にはなかなか伝わりにくいだろうと思う。お住まいになっている方々が吸ってしまった時の対応も視野に入れておかなければならないし、GREEN×EXPOで多くの方がやって来たらより周知していかなければならない状況になってくると思う。一番喫緊で外国人のことも意識しながらやっといういけない、みなとみらいと同じようなレベルでやっといういけない地区になると思うので、頭の体操とおっしゃったが、対応してもらえるとありがたい。

続けて資料7ページのムクドリ対策について質問させていただきたい。対策を沢山やっという思いつつも、肌感覚でムクドリの声は今でも聞こえていて、本当にイタチごっこで難しいと思うが、実際に猛禽類を飛ばしてどういう効果があるのか。それをやっといういけないとか、無駄という訳ではないが、今までどんな効果があったのか伺いたい。

【氏家土木事務所副所長】 ムクドリ対策に関しましては、令和4年度から瀬谷駅の北口広場で取り組んでいて、昨年度は3回実施しました。昨年度は鷹を飛ばしてムクドリを追い払いましたが、それを何度か繰り返すなかで一定の効果が出てくるという状況です。ムクドリは夕方に駅近くの街路樹にとまって羽を休めて、また朝に飛び立っていくというような習性がありますので、その夕方集まるところに鷹を飛ばしてここは危険な場所だと認識させて駅の街路樹にとまらないようにさせるということで、一定の効果があったと考えています。

【川口議員】 自然豊かな町だからこそ、さらに課題であることは間違いないと思っている。猛禽類を飛ばすことが無駄だとも思わないが、肌感覚で減っているように思えない。効果測定の仕方もおそらく明確なものがあるとは思えないので、なかなか難しい質問になってはしまう。効果的なやり方をやっというくださいますとムクドリも可哀そうで難しいとこ

ろであるが、肌感覚としてはまだいるということと、猛禽類を飛ばすと必ずムクドリがいなくなる訳ではなく、あの場にいなくなるだけで他に行って電線にとまっていることが結構あったりするので、本当に対策をするのであれば、もう少し違うやり方があるのではないかという気がするので、また相談させてもらいたい。

次に19ページだが、地域人材の発掘と育成事業というところで、具体的にどういったものであったか、教えてもらいたい。

【政木地域振興課長】まず昨年度ですが、地域で自治会運営をしていくに当たって悩み事があるということに対して、外部の専門家の方々を派遣させていただいて、実際に各自治会町内会や連合町内会が悩んでいることに対しての課題解決に繋げるようなコーディネーター派遣を実施しました。また、やはりデジタル化が非常に重要ですので、いろいろな自治会が取り組んでいる事例の紹介冊子を作成し、配布等を行っています。

【川口議員】続いてまたGREEN×EXPOに戻って、昨年度と今年度いろいろ取り組んだというところで、資料46ページにおいても機運醸成で拡充となっているのだと思う。そろそろ開催まで2年半を切ってくる中で、瀬谷区としてやるべきことや、やっていかなければならないことが明確になってきているのではないかと思う。先ほどの説明で、地域の方が行きたいと思ってもらえるように、さらに促していくということであったが、前回のこの会議から時間が経つ中で瀬谷区だからできること、瀬谷区ではなければできないことが、そろそろ洗い出しされてきていると思うがどうか。

【吉原区政推進課長】瀬谷区は開催区ですので、開催区ならではのところで、身近なところから機運を盛り上げられないかということからいくつか取組を進めてきているところです。さらに、地域と連携するに当たっては、先ほどもご紹介しました横浜国際園芸博覧会瀬谷区推進協議会と連携して進めておきまして、その中で例えば今年度におきましては、地域団体の皆様に花苗の配布を行って、地域の中で花壇を整備して花を育てていただき、瀬谷区を花でいっぱいにしていくといった取組などを進めています。その他、カウントダウンイベントの際に同時に花の種とエッグプランターを配布しておきまして、ご家庭で花を育てていただくといったことでGREEN×EXPOのPRも行っております。まずは、区

民の方が関心を抱き、区内を花でいっぱいにしていく取組を進めていくのが一つであると思っています。

【川口議員】 そうすると瀬谷区の中の特出しできるような取組としては、景観形成や意識醸成も含めて、区役所としてはまちを花でいっぱいにしていくということに重点を置いているという解釈でよろしいか。【植木区長】 今の予定ですと、三ツ境駅と瀬谷駅からシャトルバスが出ることとされていますので、多くの方が瀬谷区の中を通過して会場まで行かれることとなります。その際に GREEN×EXPO の会場だけが綺麗で、その他のところが緑豊かであってもちょっと、というようなことにならないように、会場までが整っているというような形にするために、地域の皆様のご協力をいただきながら、区としてはその点に重点を置いて取り組んでいく必要があると考えています。

【川口議員】 区役所の予算、あるいは脱炭素・GREEN×EXPO 推進局からも予算配当を受けていると思うが、みどりアップの予算を活用することはできないか。

【吉原区政推進課長】 ご指摘いただきましたように、局からの再配当予算につきましては、脱炭素・GREEN×EXPO 推進局だけではなく、みどり環境局からも、関連事業に予算をいただきながら進めています。

【川口議員】 瀬谷区としては、まちを花いっぱいにしていくんだという気持ちを改めて文言化して示していくことも必要であると思っている。世界的なイベントであるので、機運醸成も 360 度いろいろなことをやっていかなければならなくなってくると思う。地域の人もいろんなことをやっていかなければならなくなってしまうと混乱してしまうと思うので、区役所としてはこれというのを示してもらった方がよりこの短い期間の中で機運醸成に繋がるのではないかと考えているので検討してもらいたい。

全体的な質問に戻るが、我々も勘違いという訳ではないが、GREEN×EXPO だけでなく、その後のテーマパークや公園の整備もある中で GREEN×EXPO とこんがらがってしまっている方も地域の中には結構いらっしゃると思っている。区役所が地域の中で交流していく中で、地続きではあるが 2 段階の瀬谷区の実現の仕組みを理解してもらえているのか教えてもらいたい。

【植木区長】 GREEN×EXPO もテーマパークもあの辺りというご理解でいら

っしゃる方も多いので、時期も含めて混乱をされているケースもあるか
と思います。特に GREEN×EXPO は国際園芸博覧会協会が実施するもので
すが、テーマパークに関しては、今後いろいろと地権者の方々も含めた
調整も行ったうえでという点がまだ十分にご理解をいただけていないと
いうところもありますので、いろいろな機運醸成を図っていく中でもご
理解いただけるように取り組んでまいります。

【川口議員】 GREEN×EXPO だけではなくテーマパークもわくわくする一方
でいろんな弊害が生まれる可能性があるような事業であることも間違い
ないと思っている。区民の皆様もなかなかその点を分けて考えられてお
らず、GREEN×EXPO とテーマパークがごちゃ混ぜになってしまっている方
も多い。新交通はテーマパークまでに完成するものと解釈しているが、
GREEN×EXPO までにできるもの、と紐づくところ1つがこんがらがると全
部がこんがらがってしまうと思うので、地域の中でいろんな方と向き合
う中でも意識して GREEN×EXPO の後にテーマパークがあるということも
説明してもらえると、地元の方々がより期待を膨らましてくれる可能性
もあると思うので意識してもらいたい。

今年度はイルミネーションをどのように実施するのか。

【吉原区政推進課長】 昨年度と同様に 11 月の中旬から翌年 1 月中旬まで
の約 2 か月間、瀬谷駅の北口と南口において点灯を行いたいと思ってい
ます。今年については北口駅前広場にある時計台の所有者の方にも協力
をいただいて装飾を施したいと考えて調整しています。また昨年と同様
に、瀬谷駅自由通路階段部分の壁面に GREEN×EXPO の P R のためのプロ
ジェクションマッピングも行いたいと思って準備を進めています。

【川口議員】 今年も期待させていただきたいと思う。

最後に、資料「瀬谷区の福祉と保健衛生」の 31 ページにハチ相談件数
のうちのスズメバチ相談受付件数が載っており、引き算すると割とスズ
メバチ以外の相談もあると理解されるが、スズメバチ以外のハチの相談
とは、分蜂の駆除のことなのか。

【坂井生活衛生課長】 分蜂はミツバチに見られる現象ですが、分蜂につ
いてのご相談件数は非常に少ない状況です。スズメバチ以外で圧倒的に
ご相談が多いのはアシナガバチです。市中でよく巣を作る 2 種類がスズ
メバチとアシナガバチで、ご相談も多くなっています。

【川口議員】 個人的に、ハチが駆除の対象として書かれてしまうとミツ

バチが非常にかawaiiそうだと感じる。スズメバチやアシナガバチとは分けて書いてもらえるとありがたい。先日発売された「地球の歩き方横浜市」の瀬谷区のページにも、瀬谷区の名産品としてウドと蜂蜜の2つが載っている。せやまるのGREEN×EXPOバージョンのイラストでも2匹のミツバチが飛んでいるくらいなので、通常は駆除の対象にはならないことを意識づけていただけるとありがたいと思う。

【久保議員】地域防災関係事業全般について、昨今の地震を受けて市民の皆さん、区民の皆さんも防災意識が非常に高まっていると感じている。先ほど別の議員からも話があったが、地域防災拠点訓練にできるだけ参加させていただいている中で、これまで直接いろいろなご意見をいただけてきた。ついこの間も大きな地震があり、また先週も気候変動等の影響によって大きな風水害もあったが、やはり防災意識の向上が一番大事であると常々感じている。区としてもできることをしっかりやってもらっていると認識しているが、区長の防災に対する思いを伺いたい。

【植木区長】自然災害には急に來るもの、予めある程度予想がつくもの様々ですが、いずれにしてもまずは普段から備えておく意識付けをしていただくことが大事だと思います。区役所が担う公助にもどうしても限界がありますので、日ごろから備えていただく意識付けをしながら、区民の方に防災に対する意識を持っていただけたらと思いますが、ただ過剰な心配をいただかないように周知を図っていければと考えています。

【久保議員】自助と共助があつて最後に公助があり、やはり日々の備えが大事であると思う。昨今フェイズフリーという言葉があり、平時からの備えが実は災害にも役立つという考え方が今後防災についても必要だと思う。平時からの備えにしっかり取り組んでいただきたいと思う。

今回の台風で阿久和川の一部に被害が生じたと聞いているが、どのような状況だったか。

【氏家土木事務所副所長】今回、阿久和川の三の橋の上流部において、既存護岸の一部が変形した、既存護岸の一部が崩れたという状況でした。これは河川の水位が上がったことによって、護岸の低部が洗掘されたことが原因であると考えています。

【久保議員】当該地については、これまでも現在の下水道河川局に対してもしっかりと護岸整備を進めてもらいたいと常々お願いしてきた。大

雨に伴う浸水対策の必要性がより一層強まってきているということもあるので、こちらについては引き続きしっかりと頑張ってもらいたいと思う。

次に地域防災拠点について、エリアごとに区役所職員も訓練に参加していて、防災備蓄についての課題があるというような声も直接伺っていると思う。防災倉庫が少し狭かったり、備蓄品の種類ももう少し充実したりするといいのではないかなど、様々な声があると思うが、現場からはどのような声が上がっているのか。先ほど責任者の方々が集まって、いろいろと区役所と意見交換する場があるということであったが、そうした声はしっかり受けとめているのか伺いたい。

【松田総務課長】防災備蓄庫に関する課題については、地域の運営委員の皆さんからも区役所に届いています。また備蓄の内容につきましてもやはり充実を図っていかなければいけないことから、数年前と比べると液体ミルクの備蓄や段ボールベットも加えています。拠点の備蓄庫に必要なもの、若しくは届くまで少し時間を要しても大丈夫なようなものということも整理をしながら、内容や数量も含めて引き続き検討を進めていきたいと考えています。

【久保議員】続いて資料17ページの生活困窮者自立支援事業の中で新規事業が一部あったが、その評価をどのように考えているのか確認したい。

【越川生活支援課長】昨年度ひきこもりの支援者を対象として講演会を実施しました。ひきこもりについては中々理解することが難しい部分もあり、この講演会を通じてひきこもりが誰にでも起こり得ることであることや、あるいは本人や家族の苦しみということを改めて認識したということで、講演会自体の評価は非常良かったというアンケートをいただいています。ただ、中々ひきこもりについての認識が広まっておりませんので、引き続き、今年度もさらにより地域に根ざした講演会等を実施していくことを考えています。

【久保議員】瀬谷区にひきこもりの方が何人いるのか実態把握はできているのか。

【越川生活支援課長】実態がつかみにくいものなので、今、こちらで把握している数字は令和4年度に行った実態調査において、一部の市民を対象にしたアンケート結果を基に人口から推計して瀬谷区には1,000人

程度いるのではないかというのが把握している数字です。

【久保議員】その調査結果を元に推計値を出しているということか。

【越川生活支援課長】そうです。

【久保議員】健康福祉局になるのかもしれないが、もう少しリアリティーのある実態を把握する方法はないものか。地域の方との触れ合いの中でこうした話は結構伺っていて、8050と言っていたものが、それがもう9060になっている。後期高齢者を超えて84、5歳になられて息子が50、60歳前だが、主人が亡くなったからいろいろ心配であるとか、あるいは身体が不自由になってきたら今後息子をどうしよう、というような話も聞く。やはり実態を正確に把握する方法があれば、と思う。先ほど推計値ということであったが、やはりそうしたデータはないのか。

【越川生活支援課長】ひきこもりという性質上、中々表に出てこないものですので、正確な数字というのはやはり掴みづらいというのが正直なところだと思います。前回令和4年度に調査がありましたが、調査は5年ごとに行われると聞いておりますので、新しい調査結果に基づいた推計が改めて行われると思います。

【久保議員】これに関連することかも知れないが、不登校支援について、不登校からひきこもりになるというようなことも結構ある。不登校支援については教育委員会の所管になるかと思うが、不登校支援が長期化するとひきこもりに段々近づいていくという社会課題もある。実際、何かそのような取組が区役所としてできるのか。何か行っていることがあれば教えてもらいたい。

【深見こども家庭支援課長】区役所でできることとしては、一般的にはご相談が入れば、こども家庭相談で専門の相談員が対応させていただいています。おっしゃるとおり、必要に応じて教育委員会の教育相談に繋げることも多く、学校に配置しているスクールカウンセラー等の紹介も行っています。区の事業としては、不登校の背景に世帯全体が抱える課題等があれば、要保護世帯として組織的に把握した上で寄り添い型生活支援事業に繋げています。その中で日常生活習慣を身につけるということで、登校を促すために朝、電話連絡をしたり、学校には行けないけれど寄り添い型であればいけたりといった場合は、学習支援の一環として午前中の時間から対応する場合があります。こちらについては不登校支援に特化したものではありませんが、世帯全体を捉えてその都度必要な

支援に取り組んでいるところです。

【久保議員】原中学校のコミュニティ・スクールの場所を借りて、地域の方々がボランティアをされている原中学校の地域学校協働本部が運営主体となって不登校支援を行っているかと思う。この方々が一生懸命やっていたが、その中でWi-Fiの機能があればという声をいただいている。東野のコミュニティ・スクールでもそのような声を聞いている。ボランティア活動でコミュニティ・スクールをサードプレイスとして居場所の提供している。そうした方々からWi-Fi機能が欲しいという声が寄せられているが、コミュニティ・スクールは教育委員会、またコミュニティハウスは市民局と所管が異なっている中で、区役所としてこうした方々をサポートすることができないか。

【政木地域振興課長】瀬谷区には4つのコミュニティ・スクールがあり、おっしゃるとおり、教育委員会の所管施設ではありますが、地域振興課において施設の管理運営を委託しています。今いただいたご意見をしっかり教育委員会に伝えるとともに、連携しながら何かできないか検討していければと考えています。

【久保議員】コミュニティ・スクールは市民の皆様、区民の皆様が開かれた地域の交流サロンで、将棋をしたり、地域のイベントやったりしているが、それをライブ配信したいという声もあったりする。そういう時代になっているので、瀬谷区においてはコミュニティ・スクールしかないが、ぜひ検討してもらえるとありがたい。

資料26ページの地域包括ケア推進事業で、例えば先ほど孤独死のことで地域の見守りがあったが、やはり瀬谷区の特徴である公営住宅、県営住宅や市営住宅が多いということについて対応が必要だと思うが、特に高齢化によって集合住宅に諸課題が出てきている。先ほど蜂の話があったが、実はスズメバチの駆除に苦労しているということがあって、85、6歳になって自分で木に登って駆除していると聞いた。区役所に行って防護服を借りられるのかなど様々なことをおっしゃっていたが、地域で草木を誰が刈るのかということになると、ボランティアで80歳を超えるような方々が一生懸命にやっている。こういった方々が蜂の巣を見つけたら駆除をどのようにやるのかなど様々なあるが、やはり公営住宅に対する取組が一つ大事である。また、先ほど孤立化という話もあったが、市営住宅の中で結構孤独死がある。そうしたことからすると、地域が総合的

に孤立された方々を見守っていく、特に孤立死、孤独死が散見されるようであれば、見守り強化というのは今後大事な取組だと思う。それを国の方でも、地域が主体的になっていることもあるが、こうした取組は民生委員や地域ケアプラザがやっていく等いろいろあると思う。その中で民生委員が高齢化で限られた所を見るのも実際は一杯いっぱいだという声もあったりする。その中で、地域での見守りをより一層強化していかなければいけないと感じているが、その点についてどう考えているのか確認させてもらいたい。

【佐藤高齢・障害支援課長】地域包括ケアにつきまして、高齢化が進むと医療や介護の需要が増えてきますので、高齢者の尊厳を守って、自立した生活を最後までできるように取組をこれまで進めてきたところです。区内でもかなり高齢化が進んでいて、高齢化率が40%を超える地域もありますので、共助や地域の支え合いの取組を進めるにあたって、地域ケアプラザや区役所がかなり力を入れていかないといけないような場面も増えてきています。区内の大規模な公営住宅である細谷戸、南台、阿久和の3ヶ所については、生活援助員派遣事業ということで、その地域を担当している地域ケアプラザと同一法人が見守りの拠点を設置してスタッフを派遣していますが、その見守りを登録された方につきましては、訪問や電話等で定期的な安否確認を行っています。民生委員の見守りに加えてそうした取組を行っています。また、孤立死については局の方で行っている事業ではありますが、孤立予防対策として、新聞販売店や電気ガスなどの事業者にご協力をいただいて、何か異変を感じた時は教えていただくような取組も進めています。そうした形でかなり多方面から見守れるよう、工夫をしながら進めさせていただいております。

【久保議員】LSAの設置をしてもらっているが、そうしたところに登録をされる際に周囲と人間関係を構築できる方はよいが、孤立死の課題として、やはり中々人間関係を築けない方が孤立してしまうため、そうした方々も含めて巻き込んでいくといった方向性も今後必要だと思う。しっかり地域が孤立死、孤独死を防ぐというような観点をより積極的に持っていければという気持ちを持っている。

最後になるが、庁舎環境整備事業に関して、区役所のロータリーについて以前車が入れないという話をした際に、その後駐車場を10分間無料

にして、障害者用の駐車スペースを3台分設けてエレベーターに誘導してもらおうということをやってもらったが、実際2人の方からロータリーの段差で転んで怪我をしたと聞いていて、障害者の方も1人転んだということであった。ロータリーに車が入るのは難しいかもしれないが、例えばあまり濃い色をつけると派手でデザインとしてよくないかもしれないが、何らかの工夫も必要なのではという声もある。それが必ずしも正しいという訳ではないので、何らかの検討してもらった結果現状のままということであればよいが、そもそもロータリーに車が入れないところから話は始まっている。より高齢化が進んでいる中で、区役所の窓口に来るのに怪我をしたというのは好ましくないと思うので、そこに対する工夫等もやってもらいたいと要望したいがどうか。

【松田総務課長】お怪我をされたというお話もございました。区役所の入口までバリアフリーの経路として位置づけております。ご指摘のとおり、確かにロータリーは通常車が入って来ませんが、緊急車両の動線等になっています。ロータリーとしての機能は必要ではありますが、いただいたお話については経費との兼ね合いはあるものの、課題を踏まえて検討させていただきたいと思えます。

○その他

【花上議員】海軍道路と野境道路の桜については、不健全とされたものは撤去、伐採ということによいか。残った健全な桜227本についてはそのままその場所に残す、あるいは移植するといった今後の方向性について考えを聞かせてもらいたい。

【富永土木事務所長】道路によって異なりますが、野境道路の桜並木につきましては寿命を全うするまで、今の桜をずっと残します。不健全となった桜を撤去した後、空き植栽枠が連続する区間が段々増えてきますので、道路から道路、つまり交差点間が全部空き枠になった段階で、新しい桜を新しい植栽基準で植えていく方向で考えています。海軍道路につきましては、北側が上瀬谷の事業区域内、南側は事業区域外となりますが、上瀬谷事業で道路拡幅するところについては、今ある桜を上瀬谷事業で全部再生する計画になっています。それ以外の区間、具体的に申し上げますと、中瀬谷消防出張署から南側、瀬谷中学校前交差点までは上瀬谷事業の範囲外となりますが、やはりGREEN×EXPOに向けての機運

醸成ということから一体で整備していくことが望ましいと考えています。ここの桜の設えについては局と連携して賑わいを創出したり、機運を高めるための整備が必要と考えておりました、現在どのように整備していくかということについて局と調整をしている最中です。

【花上議員】事業外のところは構わないが、事業内の桜については基本的には新しく造る道路に植栽をして、その植栽として桜の木を植えると聞いているが、そのような考え方でよいか。

【富永土木事務所長】私達もそのように聞いています。

【花上議員】ということは、事業内の桜は撤去することになるのかどうか。議会でも言ってきたが、健全なものは新たに造る上瀬谷の公園の中に、移植できるものは移植したらいいのではないか。そういう考え方はあるか。

【富永土木事務所長】今おっしゃったことについて、局で議論をしているということは聞いていますが、最終的にどうなるのかについては私達もまだ把握できていないところです。海軍道路については、今後、上瀬谷事業で拡幅しますが、その際に事業区域内の海軍道路を閉鎖して上瀬谷事業区域内に整備するバイパス道路に切り替える予定です。閉鎖後の海軍道路と桜の管理をどうするかということも含めて、現在、局と土木事務所で調整をしている最中です。

【花上議員】局の考え方が分からないとはっきりしたことは言えないということだと思うので、我々も局と話し合いをして、移植できる桜の木はできるだけ移植した方がいいと言ってきたが、この間上瀬谷に行った際に、上瀬谷のエリアの中にある樹木を200本位移植したと聞いたが、それは承知しているか。

【富永土木事務所長】上瀬谷の事業区域内のほとんどは農地と農道と承知しています。そのため、従前も土木事務所で管理していないことから、民有地に生えている木ですとか、道路に樹木があったということも承知しておらず、今お話を聞いて認識を新たにしました。

【花上議員】この話をここで議論することが間違っていたと思うが、局とよく意見交換しながら、残せる木は残して、それで新たに造る横浜市最大級の公園の中に植えられる桜は移植して、それで新たな魅力ある桜の森公園を作ってもらいたいと言ってきたので、その方向で整備してもらおうようお願いしていきたい。そうすると、土木事務所が今後やるこ

	<p>とは、残り 18 本の桜の木を撤去する方向で予算を確保する話をしているという段階ということでしょうか。</p> <p>【富永土木事務所長】 そういう状況です。</p> <p>【川口議員】 伐採することになった桜の木の再利用というのは明確にしてみたい。土木事務所でもその差配はできると思うので、改めて意識してみたい。</p> <p>【久保議員】 木を切るタイミングだが、桜の花が咲く時期は避けてもらいたい。不健全だから木を切るのだが、様々な誤解を生みかねないのでよろしくお願ひしたい。</p>
<p>備 考</p>	